

第3次秦野市環境基本計画 について

作業期間：令和元（2019）年8月－令和3（2021）年3月

施行期間：令和3（2021）年4月－令和13（2030）年3月

令和2年2月25日

秦野市環境産業部環境共生課

第1回会議のまとめ（主要なもの）

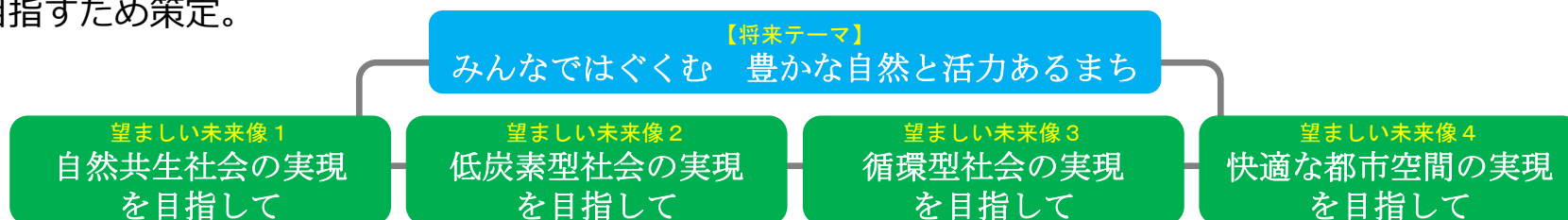
1. 計画の目的

➤ 第1次計画（平成12年3月）

本市の恵みある自然を守り、地域の環境問題に責任を持って対処するため、地球規模に及ぶ環境への影響を視野に入れ、市民・事業者・各種団体等が一体となって秦野の環境を後世に継承していくことを目的に策定。

➤ 第2次計画（平成23年3月）

第1次産業から第3次産業まで広く環境にかかわる事業活動が注目され、産業構造の変化に対応した総合的な環境施策が重要となったことから、身近な生活環境から自然環境、地球規模の環境問題を視野に入れたまちづくりを目指すため策定。



➤ 第3次計画（令和3年3月施行）

「将来テーマ」は第2次計画の踏襲を前提に「望ましい未来像」も大幅な改定は行わないものとし、「基本施策や具体的取組み」については、これまでの体系を再構成するとともに、社会情勢及び社会潮流を注視しながら新たな着眼のポイントを意識した内容となるよう策定。

2. 国及び県における計画策定の動向

➤ 【国】第五次環境基本計画（2018年）

現状と課題認識（SDGs、パリ協定などの国際的な潮流）により、今後の環境政策の展開の基本的考え方（イノベーションの創出、経済・社会的課題との同時解決）を提示。

➤ 【県】神奈川県環境基本計画（2016年）

1.持続可能な社会の形成、2.豊かな地域環境の保全、3.神奈川の「チカラ」との協働・連携の3つの施策の分野において、10年後のめざす姿等や施策の方向を明らかにした施策を体系化、重点施策を設定。

3. 着眼のポイント

SDGs
への貢献

関連する
各種計画
等との
連携

脱炭素社
会・地域
循環共生
圏の構築

気候変動
への適応
による環
境対策

SDGs

国連サミットにて採択された、17項目のゴールと169項目のターゲットで構成された持続可能な開発目標



第5次環境基本計画

「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱

第5次エネルギー基本計画

エネルギーミックスの実現（2030年）
脱炭素化への挑戦（2050年）



気候変動への適応

気候変動対策の「緩和策」と「適応策」は、いわば車の両輪の関係
これまでの「地球温暖化対策推進法」と「気候変動適応法」の二つを礎とした対策（農林業、交通・防災等）を推進

秦野市総合計画、及びその他関連する計画

環境を視点とした取組みに注視した連携

4. 事務スケジュール（一部変更）

| | 令和元年度 | | 令和2年度 | | | | | | | | | | | |
|----------|-------|---------|-------|-----|-----------|---------------|----|----|----------------|-------|----------------|----|----|----|
| | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 環境審議会 | ■ | 進行管理の評価 | | | ■ | 素案の協議 | | ■ | 原案（市民意見等反映）の協議 | | ▲ | | | ★ |
| 庁内会議 | | ● | | (●) | | | ● | | | | | | | |
| 庁議・各課照会等 | ● | | | | | ● | | ● | 庁 政策会議 | | ● | | 庁 | |
| 市民意見 | W | | | | 環境月間WSの実施 | 無作為抽出によるアンケート | | | | WSの実施 | 必要に応じて実施を検討する。 | | P | |

■…通常会議／★…通常会議（諮問・答申）／▲…中間報告及び意見聴取（書面等）W…ウェブアンケート／P…パブリック
 庁…政策会議・部長会議・議員連絡会

第2回会議の協議事項

1. 進行管理シートに基づく総合評価

1. 評価ポイント

| 【数値目標】 | | 内容変更 | | | | | |
|--------------------------|----------------------|--------------------------|----------|-------|-------|------|------|
| 目標 | | H26年度（H28） | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | H2年度 |
| 「生き物の里」における活動回数を60回にします | | 基準値（変更後） | 中間改定後の数値 | | | | 目標値 |
| | | (50) | 65回 | 65回 | 64回 | — | 60回 |
| 目標の達成状況 | | 状況等の説明や自己評価 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 目標値を達成（目標年次までに達成可能） | <input type="checkbox"/> | 目標達成は困難 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 目標値は達成できないが、所期の目標は達成 | <input type="checkbox"/> | その他 | | | | |

| 【具体的取組】 | | | | | |
|---------|---------------------------------------|---------|--|----------------------------|---------|
| 分類 | I 緑地保全対策や緑地の創造 | | | | |
| 取組主体 | 取組 | 評価 | 評価の説明や取組に対する自己評価、及び「今後の方針」の内容・理由 | | 今後の方針 |
| 市 | 「生き物の里」を指定するとともにその活動を充実させ、谷戸田などを保全します | B | 生き物の里管理運営協議会により、草刈りや水路等の整備を実施し、生き物の里周辺の環境を保全しました。 | | |
| | 環境創出行為に対して、生物の生息環境の保全に対する指導を実施します | B | 希少な動植物が生息する、又はその近隣における開発行為については、影響を最小限にするよう指導しました。 | | |
| | ビオトープなど生物の生息空間をつくり、ネットワーク化します | B | いまいずみホタル池や今泉名水桜公園が整備されています。 | | |
| 取組主体 | 取組 | 取組主体の整理 | 取組主体 | 取組 | 取組主体の整理 |
| 市民・事業者 | 「生き物の里」指定に協力し、活動します | | 市民・事業者 | 自宅の庭やベランダに緑を植えます | |
| | 生物多様性に対する知識を深めます | | | 生態系の保全など多面的機能を持つ森林の保全に努めます | |
| | 身近な自然や生物を大切に、保全活動に参加します | | | | |

評価 A = 完了、B = 実施中、C = 保留または見直し

- **A【数値目標（自己評価）】・B【具体的取組（今後の方針）】**に基づき、これまでの取組みが「**望ましい秦野の未来像**」実現に効果的に作用（基本施策を着実に推進）しているか、**評価**してください。



評価結果を施策担当課へフィードバックし、次期計画素案の「たたき台」として活用

2. 評価シートの記入方法

| 【望ましい 桑野の未来像】 | 【基本施策】 | 【具体的取組】 | 【数値目標及び達成度(H30)】 | | 【担当課による数値目標の捉え方】 | 【評価及び意見】 | |
|--|---------------------|--|--|-------|---|----------|-------|
| | | | 【目標値】 | 【現状値】 | | 評価 | 意見・提案 |
| 1 森林や里地里山・里川が広がる緑と水が豊かなまち <small>自然共生社会の実現を目指して</small> | 1-1 生物多様性の保全再生 | 1 緑地保全対策や緑他の創造 2 動植物の情報収集や保護対策 | 「生き物の里」における活動回数 【目標値】 80回 【現状値】 64回 | 達成 | <input type="checkbox"/> 目標値を達成（目標年次までに達成可能） <input type="checkbox"/> 所期目標は達成（目標値は未達成） <input type="checkbox"/> 目標達成は困難 <input type="checkbox"/> その他 | 評価 | 意見・提案 |
| | 1-2 森林・里地里山の保全再生と活用 | 1 森林の維持・管理 2 里地里山の維持管理・ふれあい空間づくり | 水源の森林エリアにおける森林整備（奥山を除く）面積 【目標値】 50ha 【現状値】 51ha 森林整備事業への市民参加数 【目標値】 1,050人 【現状値】 1,339人 | 達成 | <input type="checkbox"/> 目標値を達成（目標年次までに達成可能） <input type="checkbox"/> 所期目標は達成（目標値は未達成） <input type="checkbox"/> 目標達成は困難 <input type="checkbox"/> その他 | 評価 | 意見・提案 |
| | 1-3 農地の保全再生と活用 | 1 都市農業の推進 2 体験農業の支援・育成 | 地産地消サポーター協力店数 【目標値】 38店舗 【現状値】 42店舗 | 達成 | <input type="checkbox"/> 目標値を達成（目標年次までに達成可能） <input type="checkbox"/> 所期目標は達成（目標値は未達成） <input type="checkbox"/> 目標達成は困難 <input type="checkbox"/> その他 | 評価 | 意見・提案 |
| | 1-4 地下水・里川の保全と活用 | 1 地下水保全・活用、かん養対策 2 生活・工場排水対策や水質汚濁防止・地下水浄化対策 3 土壌汚染防止対策 | 河川の環境基準達成率 【目標値】 94% 【現状値】 83% 地下水水位（監視基準点）の維持 | 未達成 | <input type="checkbox"/> 目標値を達成（目標年次までに達成可能） <input type="checkbox"/> 所期目標は達成（目標値は未達成） <input type="checkbox"/> 目標達成は困難 <input type="checkbox"/> その他 | 評価 | 意見・提案 |

- **C【評価】**は「**①妥当**」「**②概ね妥当**」「**③見直しを検討**」「**④見直しが必須**」の項目を記入（①～④の数字のみで可）し、評価項目に応じた**D【意見や提案】**を付けてください。

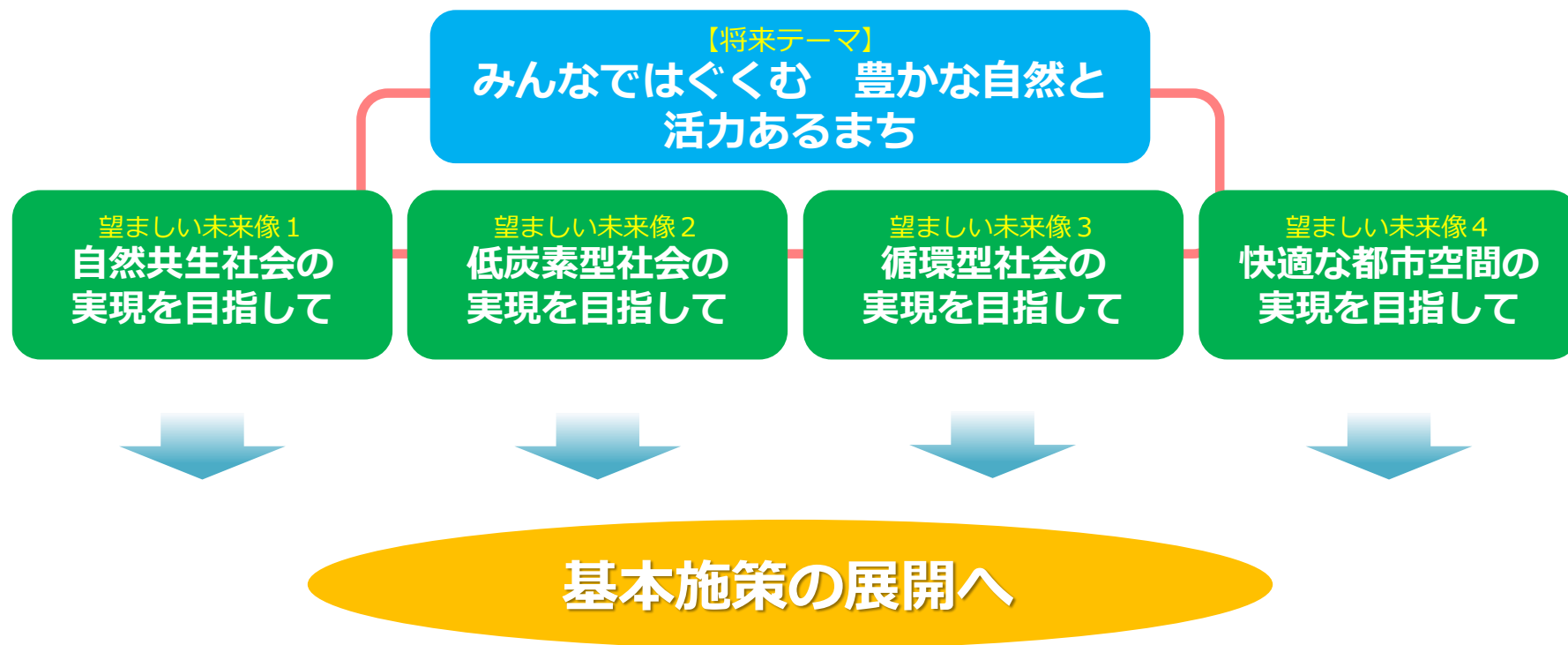
| 評価区分 | 区分の指標（P7の参考視点を踏まえ） | 評価区分 | 区分の指標（P7の参考視点を踏まえ） |
|-------------|--|---------------|---|
| 妥当 | 基本施策の推進に対し、具体的取組及び施策の方向性が 適正に機能 している状態 | 見直しを検討 | 基本施策の推進に対し、具体的取組及び施策の方向性が 乖離し始めている 状態 |
| 概ね妥当 | 基本施策の推進に対し、具体的取組及び施策の方向性が ある程度機能 している状態 | 見直しが必須 | 基本施策の推進に対し、具体的取組及び施策の方向性が 乖離しかつ改善を要する 状態 |

2. 計画の体系と基本施策の概要

1. 計画の体系

➤ 第2次計画（平成23年3月）

第1次産業から第3次産業まで広く環境にかかわる事業活動が注目され、産業構造の変化に対応した総合的な環境施策が重要となったことから、身近な生活環境から自然環境、地球規模の環境問題を視野に入れたまちづくりを目指すため策定。



2. 基本施策の概要

【望ましい秦野の未来像1】 森林や里地里山・里川が広がる緑と水が豊かなまち

【基本施策】 1-1 生物多様性の保全再生

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|---------------|-----|-----|
| 生き物の里における活動回数 | 64 | 60 |

1-2 森林・里地里山の保全再生と活用

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|-------------------------------|-------|-------|
| 水源の森林エリアにおける森林整備（奥山を除く）面積【ha】 | 51 | 50 |
| 森林整備事業への市民参加数 | 1,339 | 1,050 |

1-3 農地の保全再生と活用

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|---------------|-----|-----|
| 地産地消サポーター協力店数 | 42 | 38 |

1-4 地下水・里川の保全と活用

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------------|-------|-----|
| 河川的环境基準達成率【%】 | 83 | 94 |
| 地下水位（監視基準点）【m】 | 121.7 | 122 |

【まちのイメージと主な課題】



市民意識調査（H27実施）の結果、将来の秦野のイメージについて「緑が豊かで自然に触れられるまち」が最も多く、次に「空気と水がおいしい潤いのあるまち」があげられており、これらの豊かな自然環境は、秦野の財産であり「秦野らしさ」の象徴でもあります。生物多様性の保全など次世代に豊かな自然環境を引き継ぐためには、持続可能な森林づくりや全国的な傾向でもある農業の担い手不足の根本的解決、耕作放棄地の解消など、解決しなければならない問題が数多くあります。

2. 基本施策の概要

【望ましい秦野の未来像2】 地球温暖化対策など地球規模の保全に足元から取り組むまち

【基本施策】 2-1 二酸化炭素の排出量削減

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|------------------------------|------------|------------|
| H42年度の市内二酸化炭素排出量（H25年度比）【千t】 | 798 | 695 |
| | 22.7%削減 | |

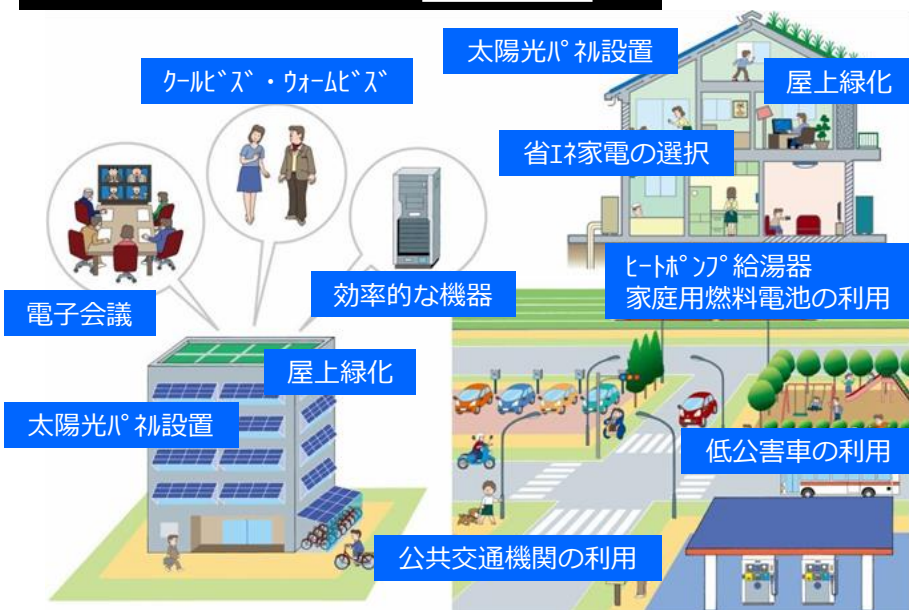
2-3 大気汚染対策

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|--------------|-----------|------------|
| 大気環境基準の達成【%】 | 93 | 100 |

2-2 省資源・省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|--------------------------|-----------|-------------|
| バイオマスストーブ設置補助件数 ※H29年度終了 | 34 | (39) |

【まちのイメージと主な課題】



地球温暖化対策地域推進計画に基づき、住宅用太陽光発電や木質バイオマスストーブ導入の補助による省エネルギーの推進や、はだの交通スリム化プロジェクトによる自動車の効率的利用や公共交通への転換を促すなど、二酸化炭素排出削減に向けた取組を進めてきました。

市民や事業者、市の各主体が、低炭素化に向けた取組を進め、生活や事業活動を見直して省エネルギーや新エネルギーを活用した機器等の導入を進めるなど、身近にできることから二酸化炭素排出を削減する取組と仕組みづくりがより一層必要となっています。

また、地球温暖化による気候変動に適応するため、災害対応力についても強化を図る必要があります。

2. 基本施策の概要

【望ましい秦野の未来像3】ごみの減量と資源循環を進め環境への負荷が小さいまち

【基本施策】3-1 3Rの推進

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------------------------|-------|-------|
| 市民一人1日当たりごみの排出量（資源物を除く）【g】 | 655.0 | 581.0 |

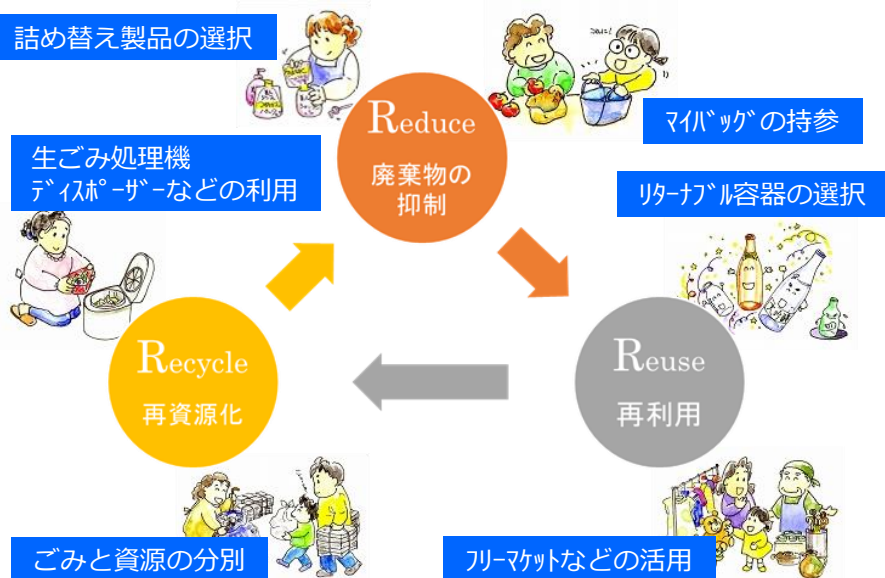
3-2 廃棄物の適正処理

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------------------|------|------|
| 総ごみ排出量に占める資源化量の割合【%】 | 23.4 | 28.6 |

3-3 環境美化推進

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|--------------|-----|-----|
| 不法投棄物の撤去物【t】 | 14 | 14 |

【まちのイメージと主な課題】



これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を見直し、私たち一人ひとりが生活に密着した身近な課題に真摯に取り組むことが、地球的規模の環境問題を解決する第一歩となります。

持続可能な社会の発展においては、循環型社会の構築を目指した廃棄物の抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）の3Rの促進が求められるとともに、木質バイオマスや廃食用油など、再生可能エネルギーの回収を促進していくことも必要となっています。

今後も一層の排出抑制・資源化を推進し、市民のリサイクル意識の高まりに相応した収集・処理体制の整備が求められています。

2. 基本施策の概要

【望ましい秦野の未来像4】 丹沢の緑やまちの景観が調和した健康な魅力あるまち

【基本施策】 4-1 うるおいとゆとりあるまちづくり

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------------------|-----|-----|
| 公園美化ボランティア（里親制度）の団体数 | 47 | 58 |

4-2 歴史や文化的遺産の継承

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------|--------|--------|
| 特別展の入場者数 | 14,343 | 14,100 |

4-3 公害対策

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|-------------|-----|-----|
| 自動車騒音の評価区間数 | 22 | 24 |

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|--------------|--------|--------|
| 桜土手古墳展示館入館者数 | 32,332 | 26,600 |

【まちのイメージと主な課題】



都市化や宅地化、大規模建物の立地などで山並みや水辺など秦野らしい風景の特徴が薄れつつあり、最大の魅力である緑豊かな自然や歴史的資源と調和した住環境の創出を進める必要があります。

また、人口の増加や住宅の密集などによる都市化の進展により、生活に密着した騒音や振動、悪臭など公害苦情が増える傾向にあります。

事業者の周辺への配慮や住民同士の話し合いなど周辺の変化や相手の立場に気を配り、快適な生活環境を良好な状態に保つ必要があります。

2. 基本施策の概要

【望ましい秦野の未来像5】 環境学習などによる人材育成と協働・連携による推進体制づくり

【基本施策】 5-1 環境教育・学習の場づくりや人材育成

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|-----------------------|-----|-----|
| 環境学習支援事業（エコスクール）の実施回数 | 80 | 60 |

5-2 市民参加による推進体制づくり

| 数値目標 | 現状値 | 目標値 |
|------------|-----|-----|
| 数値目標達成率【%】 | 47 | 100 |

【主な課題】



望ましい未来像を実現するためには、市民・事業者・市それぞれが積極的に行動することが求められます。市民・事業者・市などが互いの設備や技術、知識、技能を有効に組み合わせる協働して取り組み、各主体それぞれが果たすべき役割と責任を自覚し、自主性を相互に尊重・協力・補完し合いながら取り組むことが必要です。